

静岡新聞 2024年10月2日付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

自由民主党の総裁選挙に関連し、市場で面白い動きが起きた。高市早苗氏が選ばれる可能性が高くなったと予想したのか、為替レートは円安方向に大きく動いた。しかし、決選投票で石破茂氏が自民党総裁に決まると、今度は為替レートが大きく逆方向に振れ、円高になった。

こうした市場の反応は、石破氏と高市氏のマクロ経済政策の主張の違いを反映したものである。石破氏は、岸田内閣のマクロ経済政策を継承する姿勢を明らかにしている。金融政策については、インフレ抑制効果を持つ金利引き上げを容認している。

これに対して高市氏は、安倍晋三内閣のマクロ経済を支援する姿勢を貫いてきた。「今、利上げはアホ」と発言したことが報道され、市場関係者の話題になっていた。デ

マクロ経済・財政政策に注目

フレ脱却にはまだ十分ではないので、拙速に利上げをするのは好ましくないと聞いたかったのだろう。

石破氏と高市氏のマクロ経済政策についての見方は大きく異なるものであった。総裁選の最終日という短い時間の中で市場が大きく揺れたということからも、2人の政策の見方が大きく異なるものであることがよく分かる。

結果的には、石破総裁が選ばれ、日本のマクロ経済政策もその方向で進んでいくことになりそうだ。今回の市場の反応の中で一番注目されたのは金利の先行きであったが、これは基本的に金利引き上げの流れが継続すると考えてよさそうだ。日本ではすでに2年半近く、物価上昇率が2%を超えている。常識的に考えれば政策金利をもっと早く引き上げていってもよかったという見方もあった。ただ、日本銀行の姿勢は慎重であり、時間をかけて利上げを進めてきた。

為替レートの動きも金利政策の動きに大きく反応するものであった。日本銀行が利上げに慎重な姿勢を続けている中では、円ドルの金利差は解消せず、円ドルレートは超円安状態が続いていた。最近に

始めて、それに反応する形で円高方向への流れが続いていた。

為替レートの動きは教科書的であるとも言える。米国の金利が下がるか、あるいは日本の金利が上がることで円ドルの金利差が縮めば、それだけ円高方向に動くことになる。冒頭で触れた自民党総裁選の時の円ドルレートの動きは、そうした流れをわれわれに見せてくれた。

さて、今後のマクロ経済政策の動きはどうかだろうか。市場が予想しているように、石破内閣では岸田内閣のマクロ経済政策が継承されていくと考えるとよいだろう。また、金融政策は日本銀行が判断して行うものであるので、政権が変わったからといって、影響を受けるべきではない。

注目点は財政政策だ。金融政策が引き締め方向であるので、景気を支えるためには財政政策のアクセルを踏むことが求められるからだ。実際、岸田内閣ではインフレ対策や産業支援などで巨額の財政支出が行われてきた。石破内閣の下でこれらの政策への姿勢がどう変化するか、あるいは変化しないのか、まずは当面の動きに注目していきたい。